

ももそのだいにしょうがっこう

桃園第二小学校

かいちくすいしんいんかい

改築推進委員会ニュース

だいごう
第7号

発行：桃園第二小学校改築推進委員会

このニュースは、「桃園第二小学校改築推進委員会」(以下「推進委員会」)における話し合いの内容を、保護者や地域みなさんにお知らせするために発行しています。今号は、令和7年5月19日に開催した第7回推進委員会と令和7年6月26日に開催した第8回推進委員会で話しあった主な内容をお知らせします。

※掲載内容は開催日時点の情報です。設計内容やスケジュール等は変更となる場合があります。

※ニュース(カラー版)は区ホームページでもご覧になれます。⇒⇒⇒

推進委員会
ホームページ

基本設計の検討について

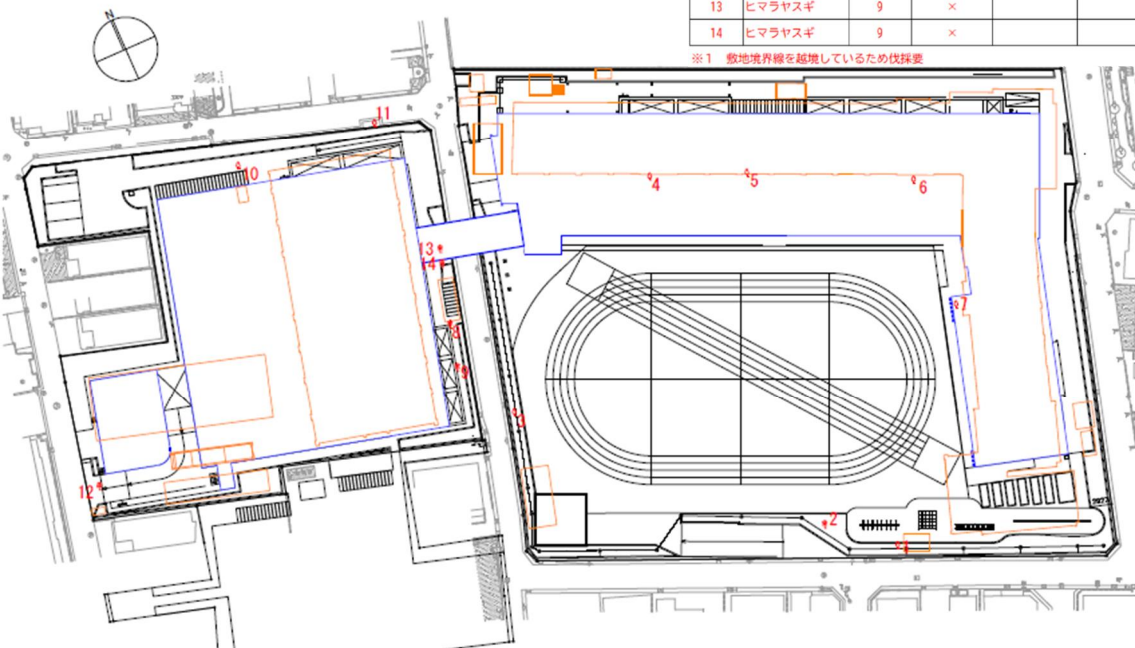
第7回推進委員会では、現校舎の樹木の取扱いと新校舎の校庭舗装材について、第8回推進委員会では新校舎の校庭舗装材について話し合いました。

①現校舎の樹木について

■主な樹木
サクラ、モモ、クスノキ、ヒマラヤスギ■凡例
赤：伐採・伐根樹木
オレンジ：既存校舎
青：新設校舎

樹木No	樹種	樹高(m)	工事範囲と干渉する樹木		樹木診断 (凡例) ○：健全+移植可 △：健全+移植難 ×：一部腐朽+移植不可	区の対応
			校舎	擁壁		
1	クスノキ	14.7		×	△	伐採のうえ 新たに植樹
2	ヒマラヤスギ	15		×	△	
3	サクラ	9.5		×	×	
4	モモ	2.3	×			
5	モモ	2.7	×			
6	モモ	3	×			
7	モモ	3.5	×			
8	ヒマラヤスギ	9		×	△	
9	ヒマラヤスギ	8		×	△	
10	サクラ	12	×		×	
11	サクラ	13	※1		×	
12	ヒマラヤスギ	13	×		△	
13	ヒマラヤスギ	9	×		△	
14	ヒマラヤスギ	9	×		△	

※1 敷地境界線を越えているため伐採要



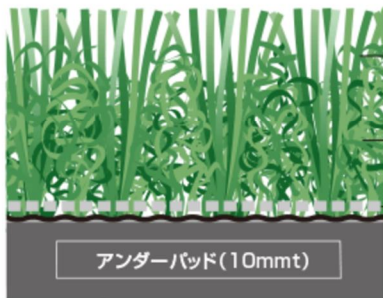
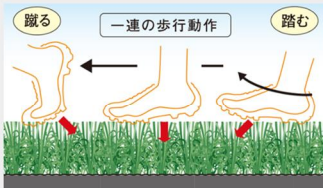
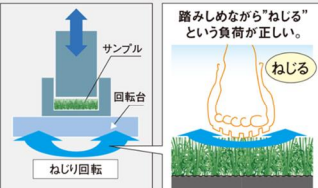
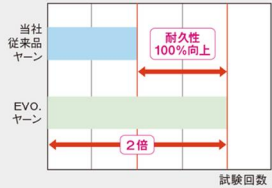
げんこうしゃ じゅもく こうしゃ ようへき かいたいこうじ しんちくこうじ かんしやう ばっさい ひつよう
現校舎の樹木は校舎や擁壁の解体工事・新築工事にあたり干渉してしまうため伐採が必要になります。
ばっさい じゅもく じょうたい りようこう しんこうしゃ あんないけいじばんなど いちぶかつよう
伐採となった樹木のうち、状態が良好なものは、新校舎の案内掲示板等の一部活用することを
かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが かんが
考えています。なお、新校舎は鉄筋コンクリート造のため、柱や梁への木材の利用はできません。

こうていほそうざい
②校庭舗装材について

人工芝基本情報

資料1

桃園第二小学校 第8回改築推進委員会資料 令和7年（2025年）6月26日

 主パイル 副パイル アンダーパッド  主パイル ポリエチレン製 (超高耐久ヤーン)直毛 副パイル ポリエチレン製捲縮 綿付きポリプロピレン製 平織布 SBRラテックスコーティング アンダーパッド(10mm)			
メーカー名	株式会社住ゴム産業		
商品名	ハイブリットターフEVO.		
説明	インフィル（充填材）を使用しないノンフィルタイプだから、流出や付着の悩みを一挙に解決します。水や雪による充填材流出の心配がある、河川敷や寒冷地のグラウンドに最適な仕様です。充填材の飛散がないので、スパイクやユニフォームなどにゴムチップや砂が付着することがありません。また、気になるゴム臭もないので、快適にプレーできます。		
パイル（主パイル）	材質	PE（ポリエチレン）	
	製法	直毛モノフィラメントヤーン	
	繊維度	5,550dtex	
	幅/長さ	1.0mm/30mm（相当）	
パイル（副パイル）	色	濃緑（FG:フィールドグリーン）	
	材質	PE（ポリエチレン）	
	製法	捲毛モノフィラメントヤーン	
	繊維度	4,000dtex	
基布	幅/長さ	0.65mm/25mm（相当）	
	色	淡緑（LG：ライムグリーン）	
裏止材	材質	綿付きPP製平織基布	
	幅/長さ	4.07m幅/任意長	
	材質	SBRラテックス	
本製品導入実績	札幌ドームブルペン（野球）、NTT東日本志木総合グラウンド（サッカー）、鶴ヶ島フットサルリゾート（フットサル）、北区堀船小学校（多目的）、北区西が丘小学校（多目的）、品川区二葉すこやか園（多目的）、品川区立豊葉の杜学園（多目的）、堺市原池公園野球場（野球）等		
23区内公立小・中学校人工芝導入実績（一例）	港区立筈（こうがい）小学校、港区立芝浜小学校、港区立芝小学校、文京区立金富小学校、文京区立夕見小学校、文京区立誠之小学校、文京区立昭和小学校、文京区立窪町小学校、足立区立弘道第一小学校、江戸川区立西小岩小学校、葛飾区立大道中学校等		
耐久性	■ 従来評価法  ■ 新耐久性評価法  ■ 耐久性試験結果（住友ゴム独自試験） 		
	※リスポート耐久試験	100,000回試験後の主パイルに著しい裂傷なし	
	ねじり耐久試験	100,000回試験後の主パイル残存面積率 88%	

※1往復を1回転とカウントし、一定回数（例：55,000回転）の摩擦を加えて、人工芝への影響を観察するFIFA公認の試験

桃園第二小学校の新校舎の校庭の素材(土舗装・人工芝)による子どもたちの生活スタイルや使い勝手の違いについて、教育委員会事務局より以下の通り説明がありました。

■学校利用における違い

- ・土舗装では上履きと外履きを使い分ける「二足制」、人工芝では校舎内でも外履きのままで過ごす「一足制」となります。
- ・人工芝はクッション性や水はけが良く、ライン引きも不要なため、体育の授業や運動に適しています。
- ・夏場は人工芝の表面温度が高くなりやすく、冬場は静電気が発生しやすいですが、スプリングラーや静電気除去シートなどの対策をとることで防ぐことができます。

■地域利用における違い

- ・校庭は地域イベントにも活用されますが、素材によって制約が異なります。土舗装ではキャンプファイヤーなどの火気使用が可能です。人工芝では禁止となります。
- ・土でも人工芝でも基本的には自由な靴で校庭を利用できますが、人工芝では運動靴等が推奨されます。
- ・土では飲食の制限がありませんが、人工芝ではジュースなどの飲みこぼしの際には水洗いが推奨されます。
- ・土では車両や重い道具の使用が可能です。人工芝では原則として制限されます(緊急時は可)。

■近隣との調和における違い

- ・土では砂埃が発生しやすく、近隣からは配慮を求める声もあります。人工芝ではその心配はありません。

■コスト面の違い

- ・初期費用(インシャルコスト)は人工芝のほうが高額です。維持費(ランニングコスト)は使用状況によって変動しますが、人工芝のほうが高くなる傾向があります。10年間の総費用においても土舗装のほうが安価です。

■PFASについて

- ・PFASはカーペットやファンデーションなどの化粧品、フライパンのフッ素加工など、日常生活で広く用いられている「有機フッ素化合物」と呼ばれるものです。「有機フッ素化合物」は1万種類以上が存在するとされています。
- ・PFASのうち、有害性が高く、健康への影響が懸念される3種類のPFAS(特定PFAS)は、国際的に規制対象となっています。
- ・桃園第二小学校新校舎で人工芝を導入する場合、特定PFASのほか、PFASそのものを使用していない製品を選定します。

■マイクロプラスチックについて

- ・マイクロプラスチック対策として、マイクロプラスチックの発生源となりやすいゴムチップを充填剤に使用していない人工芝を選定するとともに、排水フィルター設置などの対応を予定しています。
- ・人工芝の素材であるポリエチレンは「食品包装用ラップフィルム」などにも使われており、誤食しても排泄されるので一般的には安全とされています。

校庭舗装についての判断について

校庭舗装について判断する際の参考とするため、委員へ意見確認を行いました。結果は以下のとおりです。最終判断は教育委員会事務局に一任する取り扱いとなりました。

校庭舗装についての意見確認の結果(委員17名のうち、15名※の意見確認結果)

※委員のうち、教育委員会事務局の学校地域連携担当課長と子ども教育施設課長は辞退

※意見確認の方法は「土舗装」「人工芝」「どちらでも可」のうち、いずれか一つを無記名で選択

- 土舗装 7名
- 人工芝 5名
- どちらでも可 3名

※委員からの主な意見・要望※

校庭舗装材について

- ・土の校庭での体験(泥遊び、虫とのふれあい、雨上がりの水たまり)が、子どもの感性や身体感覚を育てると思うが、人工芝になるとそのような体験ができなくなってしまう。
- ・桃園第二小学校の文化は土で培われてきたので、学校を建て替えるにあたって一律で人工芝にするという考え方は桃園第二小学校の特色をなくしてしまうのではないかな。
- ・桃園第二小学校ならではのキャンプファイヤー、餅つき、盆踊りなどの行事は継続していきたい。
- ・摩耗等によりちぎれた人工芝を吸い込むことによる健康への影響について懸念される。
- ・人工芝による火気・重量物の制限が、地域の文化を損なう可能性があるのではないかな。
- ・人工芝であれば、クッション性が高くより安全であり、雨上がりでも体育や休み時間等の活動ができる。
- ・人工芝にすることで、体育の授業の際にライン引きをする必要がなくなり教員の負担軽減につながる。
- ・人工芝にすることで、校庭で組体操や逆立ちなどの練習がしやすくなり、児童の運動の幅も広がると思う。
- ・桃園第二小学校のグラウンドはアスファルトの時代もあったので、色々試してみればよいのではないかな。

桃園第二小学校改築推進委員会ニュース

編集・発行: 桃園第二小学校改築推進委員会

事務局: 中野区教育委員会事務局学校地域連携係

メール: gakkorenkei@city.tokyo-nakano.lg.jp

※推進委員会の会議要旨は、区役所7階教育委員会事務局学校地域連携係または教育委員会ホームページでご覧になれます。